

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05590	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	保育の質と子どもの発達に関する 縦断的研究－質の保障・向上シス テムの構築に向けて	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	野澤 祥子 (東京大学・大学院教育学研究 科・准教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、保育の質が子どもの発達やストレスに及ぼす影響過程を解明し、保育の質の保障・向上に向けた自治体の取組を把握することで、自治体のあるべき取組を構想・実装しようとする研究である。</p> <p>具体的には、第一に、保育の質を多面的に評価し、その実態を把握するとともに、保育の質が子どもの発達に影響する過程を縦断研究により詳細に検討し、第二に、保育の質の保障・向上に向けた自治体の取組の実態を調査し、第三に、上記の調査結果に基づき、自治体と保育園の効果的取組の在り方を構想し、実装する。以上の研究を通じ、保育の質の保障・向上を支援するシステムの構築に向けて、多層的・多面的な知見を得ることが目的である。</p>		
(意見等)		
<p>まず、我が国においてほとんど着手されていなかった保育の質が子どもの発達に及ぼす影響に関する縦断研究について、保育の質の測定にかかわる国際的評価スケール(ITTERS-3ECERS-3)や標準化された尺度による子どもの発達アセスメントを用いてスタートさせ、国際比較が可能なデータ構築の第1歩を踏み出したことが高く評価できる。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の研究計画について変更を余儀なくされたが、研究計画の見直しによって、感染症の影響とその対応の実態をオンラインで調査して、新型コロナウイルス感染症の影響下における保育の質の在り方をも研究の射程に組み入れたことも評価できる。</p> <p>加えて、本研究で得たデータによって、結果として、新型コロナウイルス感染症流行前の保育の質も把握しつつ、感染症流行下での保育の質の子どもの発達への影響を縦断的データで示すことができることの意義も大きい。全国的な自治体を対象とした、乳幼児期の保育・教育の質保証についての調査は、全国規模のものであり国際的に見ても貴重なものとなる。</p> <p>さらに、保育の質の測定のための環境センシングと可視化アプリや、保育振り返りアプリを独自に開発し、保育を振り返り、評価する研修を国内で初めて構想し、実施する準備を着実に進めているなど今後の更なる進展が期待できる研究である。</p>		